

企画展

焼き締め陶

土を感じる



Museum Collection Exhibition

Yakishime Ceramics: Feel the Clay

釉薬を掛けずに高温で焼くことで、素地を固めたやきものを「焼き締め陶」と呼びます。日本では古く、朝鮮半島から高火度焼成の技術が入って誕生した古代の須恵器に遡ります。しかし、やがてガラス質の膜である「釉薬」が施された施釉陶器が誕生したことなどから、焼き締め陶は陶磁器生産の最先端から外れてしまいます。

それにも関わらず、この素朴なやきものを日本では美的価値の高いものとして、中世以降、主に茶の湯の世界で愛でてきました。中国や東南アジアで生産された南蛮物に始まり、その後は信楽や備前、伊賀などの国内の焼き締め陶が人気を博したのです。また、近代になると、新たに中世の壺・甕も美的に賞玩されるようになります。焼き締め陶の魅力は、土の素朴な味わいに加え、施釉陶磁では釉薬に隠されてしまう形のシャープさ、火や灰の動きによって偶然にあらわれた窯変による躍動感です。自然を直接感じることができるやきものなのです。

本展覧会では、南蛮物から信楽・備前などの茶陶、そしてそこから中世の壺・甕に遡って、日本人が好んだ焼き締め陶をご覧ください。「土を感じ、愛でる」、日本独特の美意識に裏打ちされた多彩な魅力をお楽しみください。

2025年 9月13日(土)～10月19日(日) 日時指定予約制

特別企画 | 現代3作家による 茶室でみる焼き締め陶の現在
(10月3～5日/10～12日/17～19日)

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZU MUSEUM



ひだまりのくひなはなれ
緋澤鶴首花人

備前

日本・江戸時代

17世紀

根津美術館蔵

展示室1・2 焼き締め陶 ―土を感じる―



しがらきちやわん みず
信楽茶碗 銘 水のこ
信楽 1口
日本・桃山～江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

信楽焼は、13世紀後半より現在の滋賀県甲賀市周辺で生産された焼き締め陶。赤く発色した肌に、長石などの白い粒や、緑色の自然釉が映える。本作は信楽の数少ない名碗として知られる。



びぜんひらばち
備前平鉢
備前 1枚
日本・桃山～江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

12世紀末に岡山県備前市周辺で生産が始まった備前焼。赤く発色した土による力強い形や、「胡麻」と呼ばれる黄色い自然釉が特徴。本作は「牡丹餅」という名の丸い置き跡が見どころである。



なんばんよこなわみずさし
南蛮横縄水指
1口
ベトナム 16～17世紀
根津美術館蔵

「南蛮」とは東南アジアや中国で作られたと思われるやきものや金属器のこと。本作のような焼き締め陶が多く、日本に将来後、茶の湯で賞玩され、備前など国内の製品のモデルとなった。



たんぽ かめ
丹波甕
丹波 1口
日本・南北朝時代 14世紀
日本民藝館蔵

中世には各地で壺・甕などの貯蔵容器が生産された。その一つの丹波焼は、12世紀末に兵庫県篠山市周辺で生産が始まった。美しい緑色の自然釉が力強く流れる姿は、近代のコレクターたちに愛されることとなる。



いが みみつきはなれ じゅうろうじん
伊賀耳付花入 銘 寿老人
伊賀 1口
日本・桃山～江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

三重県伊賀市近辺で生産されたのが伊賀焼。隣接する信楽から展開したと考えられ、その判別は難しい。しかし、本作のような大きな歪みをもつ花入は伊賀の特徴的な作品として、茶の湯の世界で高い人気を誇る。



しがらきうつしむがしら みずさし
信楽写芋頭水指
ののむらにんせい
京都 野々村仁清作 1口
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

江戸時代初期、京都・御室窯の野々村仁清は、釉薬の技術があるにもかかわらず、焼き締め陶の写しを数多く制作した。南蛮芋頭形の本作は、意図的に白い長石の粒を混ぜて信楽に似た肌を作っている。

特別企画



庭園内茶室 斑鳩庵・清溪亭

「現代3作家による 茶室でみる焼き締め陶の現在」

当館庭園内の茶室では、期間限定で現代作家3名による焼き締め作品を展観します。展覧会とあわせ、中世から現代にいたる焼き締め陶の多彩な展開をご覧ください。

【開催時間】 午前10時より午後4時まで。ただし最終日は午後3時まで。

※詳細は当館ホームページをご覧くださいか、お電話でお問い合わせください。

※観覧は無料ですが、入館料をお支払いください。

※掲載作品の展示は未定です。

10月3日(金)、4日(土)、5日(日)



しんしょう
心象 Masashi Kuromoto

うちだ みどり
打田 翠氏

1983年生まれ、岐阜県在住。
炭化焼成による美しい偶然を
手繰り寄せ、「生まれる」瞬間を
重ねていく。

いかるが あん せいけい てい
会場: 斑鳩庵・清溪亭

10月10日(金)、11日(土)、12日(日)



もてはなす
蛻 まつなが けいた

まつなが けいた
松永 圭太氏

1986年生まれ、岐阜県在住。
原土の泥漿鑄込みによる表情を、
地層の再構築と捉え制作・展開。

ひ きん さい いち じゅ あん
会場: 披錦斎・一樹庵

10月17日(金)、18日(土)、19日(日)



だもんこ
打文壺

い せ ざき こういちろう
伊勢崎 晃一朗氏

1974年生まれ、岡山県在住。
伊部の土から自然に生まれる力
を借りて、立体造形を作り出す。

こうにん てい ふ じ あん
会場: 弘仁亭・無事庵

同時開催展

展示室 5 中世の絵巻物

鎌倉時代以降、大きな発展を遂げた絵巻物。館蔵の歌仙絵、縁起絵、お伽草子など、多様な絵巻物の世界をご紹介します。

重要文化財
てんぐぞうし えまき
天狗草紙絵巻(部分)
1巻 紙本着色
日本・鎌倉時代 13世紀
根津美術館蔵



僧侶の奢りや墮落を天狗に喩え、仏教のもと諸宗派は和合すべきであるとさとし、模本2巻を含め計7巻伝わる絵巻の1巻。各宗派が集う場面の的確な描写に、作者の優れた技量がうかがえる。

展示室 6 菊月の茶事

9月の異名である菊月は、秋の草花が風にそよぎ、月が美しく輝く季節です。この時季の風情を楽しむ茶道具約20件を取り合わせます。

おふけ うつしき かつしもん ふかばち
御深井写菊花透文深鉢
京都 野々村仁清作
1口
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵



菊花7つを透かし彫りであらわした仁清の鉢。
瀬戸の御深井を写した透明な釉薬に、料紙装飾のような雲形を加えることで、雅な器に仕立てられた。

関連催事

スライド レクチャー

展示室 1・2 焼き締め陶 ―土を感じる―

担当学芸員がスライドを使って展示解説を行います。

日時：9月26日（金）、10月10日（金） いずれも 11時30分～12時15分

会場：根津美術館 講堂

※ 当館ホームページから参加をお申し込みください。美術館入館料が必要です。
各レクチャーは同内容です。

開催概要

展覧会名 企画展 焼き締め陶 ―土を感じる―

日時指定予約制

スムーズなご入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。（招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。）

主催 根津美術館

開催期間 2025年9月13日〔土〕～10月19日〔日〕

開館時間 午前10時～午後5時（最終入館 午後4時30分）

休館日 毎週月曜日、ただし9月15日（月・祝）・10月13日（月・祝）は開館、翌火曜日休館

入館料 オンライン日時指定予約 一般 1300円（1100円） 学生 1000円（800円）

- ・（ ）内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。
- ・当日券（一般1400円、学生1100円）も販売しております。
（ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券の方はお待ちいただくことがあります。
混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。）
- ・2025年8月26日〔火〕午後1時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。
- ・ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車 A5 出口（階段）より徒歩 8 分、
B4 出口（階段とエスカレータ）より徒歩 10 分、B3 出口（エレベータまたはエスカレータ）より徒歩 10 分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1

お問い合わせ Tel. 03-3400-2536（代表）
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

広報・取材の
お問合せ 学芸部 広報課 所／村岡
Tel. 03-3400-2538（直通） e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へ
どうぞお知らせください。（press@nezu-muse.or.jp）

次回展

在原業平生誕 1200 年記念特別展「^{いせものがたり}伊勢物語 ―美術が映す王朝の恋とうた―」

2025 年 11 月 1 日〔土〕～12 月 7 日〔日〕

恋多き貴公子・^{ありわらのなりひら}在原業平の和歌を中心に編まれた『伊勢物語』。そこから生み出された魅力
ある美術作品が一堂に会します。



左：在原業平像 日本・室町時代 16 世紀

右：伊勢物語図（西の対） 板谷広長筆 日本・江戸時代 18 世紀 小林中氏寄贈
いずれも部分・根津美術館蔵

※本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。（2025.6.）